



たんぽ

たんぽ



概要

たんぽ（打包：中国）は、丸めた布をさらに布でくるみ、口を紐でくくったもので、小さな巾着のような形をしています。

主に拓本と呼ばれる石碑などに刻まれた文字を紙に写し取る際に、墨などをつける道具として用いられますが、素材やつくりを変えることで、様々な版画制作時に利用されています。例えば、湿拓という拓刷り技法（拓本もこの一種）がありますが、これは湿らせた紙を凹凸のある版部分に押し当て、たんぽに墨汁や油性のインクをつけ、軽くたたきながら凸部の形を紙に写し取るというものです。湿拓の際に使用するたんぽの素材は、中身は綺麗な布切れで、外側の布は木綿などを使用します。作成時の注意としては、外側の布が硬くしわのないように口が縛られていないと、形が崩れてしまい、版の凹部にもたんぽが入り込んで、しっかりと拓を取ることができません。また、木綿の布にキメが粗いものを使用すると、刷りの時に布目が出てしまうことがあるため、使用する布はキメの細かいものが望ましいでしょう。

この布製のたんぽは、孔版のステンシルという技法でも使用することができます。その他に銅版画の制作時にもたんぽは用いられます。この際には絹で作られたものと鹿皮で作られたものを使用します。絹のものは、固形グラウンド（防食剤）を引きのばす時に使用し、皮製のものは版にインクを詰める時に使用されます。銅版画に用いるたんぽは版画用品を扱っている画材店で購入することができます。

たんぼの制作方法



手順1. 紐（左上）、ウエス（左下）かきれいな雑巾、おしめなどの肌理の細かい木綿の布（右）を用意します。



手順4. 紐や木綿の布の余分な部分を切り取り、できあがりです。



手順2. ウエスを丸め、それをてるてる坊主のように、木綿の布でくみます。



手順3. 平らな面に押し付けるなどしてかたちを整え、紐でかたく縛ります。

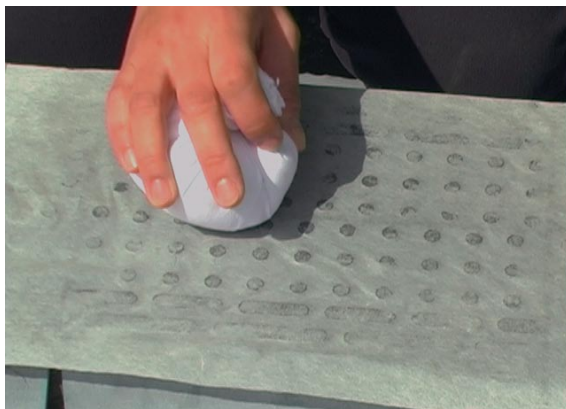
使用例 拓刷り（湿拓）



手順1. たんぽは二つ用意し、片方は湿らせておきます。



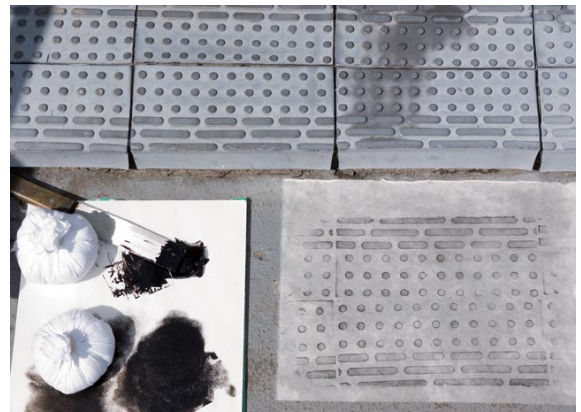
手順2. 題材とする対象物（凹凸のあるもの）に霧吹きで水をかけます。その上に紙をかぶせて再び水をかけます。水の加減に注意しましょう。



手順3. 水に湿らせたたんぽで強くおさえ、凹部に紙を落ち込ませて密着させます。



手順4. 凹部に紙が落ち込んでいるのを確認できたら、もう片方のたんぽに墨汁やインクをとり、凸部に少しずつ着色します。



手順5. インクの量が多すぎると、余計なところになってしまうので気をつけましょう。